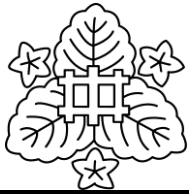


2015



石神井中だより

平成27年9月17日 発行 9月号

- 明るく、健康な生徒
- 正しい判断力を持ち、主体的に
学び行動する生徒
- 豊かな情操を持ち、品位ある生徒

<http://www.shakuji-j.nerima-tyo.ed.jp/>

学力向上に向けて

校長 田中 隆史

長かった夏休みが終わり、一学期の後半がスタートしました。今まで築き上げてきた学習方法や学習習慣、学級のまとまりを生かしながら、学力の向上を目指した主体的な学習、互いに所属感や達成感を高め合う行事づくりに取り組んで欲しいと思います。そのためには、学ぶ立場にある者にとって不可欠な『謙虚な心』をもって学校生活を送ることが大切です。皆さんをより良い方向に導こうとする先生方、家族や友達の指摘や助言に耳を傾けながら、自分を大きく成長させる一学期後半にしてください。

さて、8月26日(水)に文部科学省より全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。その結果と練馬区立中学校学力調査の結果については、下記の通りです。両調査とも3年生を対象に、全国学力調査は国語・数学・理科、練馬区の学力調査は社会・英語の学力を調査しました。

これらの結果や生徒による授業評価アンケートの結果をもとに、授業改善推進プランを作成し、学力の定着と向上を目指した授業改善に努めてまいります。授業改善推進プランは、10月末までに本校のホームページに掲載しますので、ご覧ください。

【結果の概要】

本校3年生の国語(基礎・活用)、社会(基礎・活用)、数学(基礎・活用)、理科(基礎・活用)、英語(基礎・活用)の平均正答率は、5教科とも練馬区・東京都・全国よりも上回る結果でした。それぞれの平均正答率と各教科の課題は、次の通りです。

国語	基礎	社会	基礎	数学	基礎	理科	基礎	英語	基礎
	81.7		55.8		71.7		67.1		79.8
77.2 (都)	54.2 (区)	66.3 (都)	61.9 (都)	75.7 (区)					
75.8 (全)	56.4 (全)	64.4 (全)	63.8 (全)	70.8 (全)					
活用	活用	活用	活用	活用					
70.3	50.0	50.0	52.3	67.0					
67.0 (都)	45.4 (区)	44.0 (都)	48.9 (都)	59.1 (区)					
65.8 (全)	48.1 (全)	41.6 (全)	48.8 (全)	54.1 (全)					

1、国語 <主として活用>

観点別に見ると、「書く能力」に課題があります。この観点の平均正答率は他の能力より低く、43.8%でした。その中でも、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」問題は31.9%、「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題は37.7%でした。今後は、求められた内容に対し、自分がどのように考えるかを丁寧に書くことを重視していくことが大切です。

2、社会 <主として知識>

観点別に見ると、「社会的事象についての知識・理解」に課題があります。この観点の平均正答

率は全国より若干低く、54.6%でした。領域別でも、「身近な地域の調査」の平均正答率は区や全国より低く、41.9%でした。今後は、毎日の授業だけでなく、平均正答率が低かったこの領域を重点的に復習していくことが大切です。

3、数学 <主として活用>

観点別に見ると、「数学的な見方や考え方」や「数学的な技能」に課題があります。「図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する」問題や「与えられた情報から必要な情報を選択し、ある物の占める割合を求める式を答える」問題の無解答率は他の問題より高く、33.0%と23.3%でした。今後は、毎日の授業の中で、提示された資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明できるようにすることが大切です。

4、理科 <主として活用>

観点別に見ると、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」に課題があります。「自然事象についての知識・理解」の平均正答率72.8%に対し、「科学的な思考・表現」は52.3%、「観察・実験の技能」は52.9%という結果でした。また、「科学的な思考・表現」に関する「二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明する」問題や「スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明する」問題の無解答率も他の問題より高く、17.4%と28.0%でした。今後も、思考ボードや実験ノートを活用した授業に意欲的に取り組み、自然事象を科学的に考えようとする姿勢をもち続けることが大切です。

5、英語 <主として知識>

問題の内容別に見ると、「語形・語法の理解（不定詞）」や「長文の読み取り（感想を書く）」に課題があります。これらの平均正答率は他の問題より低く、21.4%と24.0%でした。今後は、特に不定詞の理解を深め、長文の読み取り問題に意欲的に取り組むことが大切です。

6、意識調査の結果

<良好であった設問>

「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」の設問に対し、「当てはまる」と回答した割合が62.8%（全国56.0%）でした。6割以上の生徒が各行事や取組に充実感や達成感を抱いています。これ以外に、「家の人と学校での出来事について話しをしますか」「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」などの設問が高い回答でした。

<課題と思われる設問>

「自分には、よいところがあると思いますか」の設問に対し、「当てはまる」と回答した割合が17.9%（全国26.2%）と低く、少し気になります。生徒のよさを見つけ、そのよさを認める生徒指導や自他のよさを認め合う友人関係づくりを一層進めていく必要があります。また、「将来の夢や目標を持っていますか」「人に役立つ人間になりたいと思いますか」の設問でも、「当てはまる」と回答した割合がやや低く、41.4%、64.3%（全国46.0%、72.0%）でした。これらの設問は、生徒の皆さんが多少困難なことに遭遇しても、それを乗り越えるための自分自身の拠り所になるものです。今後も、3年間を見通した進路指導や体験活動等を計画的かつ継続的に実施し、生徒に将来の夢や目標を持たせ、その実現に欠かせない基礎学力と主体的な学習態度を身に付けさせていく必要があります。

各ご家庭の協力をいただきながら、将来に展望をもち、自分の夢や目標に向かって力強く生きていこうとする生徒の育成に努めてまいりたいと思います。ご協力をよろしくお願いたします。